冠詞 — 可算名詞の場合

このスライドでは、
冠詞は a/an, the, それとも無冠詞か
を判断するための考え方を
名詞が可算 (countable) の場合について扱います。

基本となる考え方

英語では、書き手は可算名詞を使用するとき、可算名詞が言及している人や物や事などが、読み手からみて、以下の3つのうちのどれに当たるかを冠詞によって示します。

名詞（又は名詞句）が指しているものが:
(i) 何か (what) 分かるが、どれか (which) 分からない
指しているものが1つの場合 → **a/an + 単数形の名詞**
指しているものが複数の場合 → **無冠詞 + 複数形の名詞**

(ii) 何か (what) とどれか (which) の両方が分かる
指しているものが1つの場合 → **the + 単数形の名詞**
指しているものが複数の場合 → **the + 複数形の名詞**

(iii) ある種類のもの全てである
基本的には、**無冠詞 + 複数形の名詞** を使用
a/an + 単数形の名詞、**the + 単数形の名詞** を使用することもある

それでは、例文をみながら、

この基本となる考え方を理解しましょう。

名詞（又は名詞句）が指しているものが
(i) 何か (what) 分かるが、どれか (which) 分からない
指しているものが 1つの場合 → **a/an + 単数形の名詞**
指しているものが 複数の場合 → **無冠詞 + 複数形の名詞**

例1
There is a book on the table. / There are books on the table.

- 読み手は、「机の上に本がある」と記されている場合、書き手が「本」という種類の物に言及していることは分かるが、どの「本」を指しているか分からない
  ⇒ 本が1つの場合は a book 、複数の場合は books とする

例2
We conducted a study to investigate the relationship between exercise and health.

- 読み手は、「我々は運動と健康の関係を調べるために研究を行った」と記されている場合、書き手が「研究」という種類のものに言及していることは分かるが、世界の中にある無数の「研究」の中のどの「研究」を指しているか分からない
  ⇒ 研究が1つの場合は a study とする

例3

Global warming is an issue that needs to be discussed.

- 読み手は、「地球温暖化は議論する必要のある問題だ」と記されている場合、書き手が「議論する必要のある問題」という種類のものに言及していることは分かるが、どの「議論する必要のある問題」を指しているか分からない
  ⇒ ここでは1つの問題なので、an issue that needs to be discussed とする

ポイント：センテンス全体（「地球温暖化は議論する必要のある問題だ」）でみると、「議論する必要のある問題」で言及されているのは「地球温暖化」だと特定できます。しかし、**冠詞は、名詞句のみによって、「どれ」を指しているか分かるかどうかで判断します**。ここでは、名詞句は an issue that needs to be discussed で、「議論する必要のある問題」は世界には複数存在するので、どの「議論する必要のある問題」を指しているか分からない、ということになります。

参考:
Global warming is the issue that needs to be discussed.
とすると、「議論する必要のある問題」は読み手が特定できるはず、ということになり、読み手が特定できるということは、「議論する必要のある問題」は世界に1つだということになります。そして、その「(唯一の)議論する必要のある問題」が「地球温暖化」だという意味になります。
したがって、このセンテンスはニュアンスとしては「地球温暖化は他の問題とは比べ物にならないほど議論する必要がある問題だ」という意味になります。このような表現はスピーチなどで使用される事がありますが、一般的にアカデミックライティングでは、あまり使われません。

名詞（又は名詞句）が指しているものが
(ii) 何か (what) とどれか (which) の両方が分かる
指しているものが 1つの場合 → **the + 単数形の名詞**
指しているものが 複数の場合 → **the + 複数形の名詞**

例1
The classrooms on this floor are accessible by wheelchair users.

- 読み手は、「この階にある教室は車椅子で利用できます」と記されている場合、書き手が「教室」という種類の物に言及していて、具体的にどの「教室」を指しているかも分かる
  ⇒ 冠詞は the を使用する

例2
The concepts listed in Table 3 are interesting.

- 読み手は、「表3に載っている概念は興味深い」とある場合、書き手が「概念」という種類のものに言及していて、具体的にどの「概念」を指しているかも分かる。
  ⇒ 冠詞は the を使用する

例3

A study to investigate the relationship between exercise and health was conducted. The study found that regular exercise reduces the risk of obesity.

- 読み手は、「運動と健康の関係を調べるための研究が行われた。（その）研究は定期的な運動は肥満のリスクを減らすことを発見した。」と記されている場合、書き手が「研究」という種類のものに言及していて、具体的にどの「研究」を指しているかというと、前のセンテンスで紹介されている研究だ、ということも分かる。

ポイント：このように、一度既に出てきていて、読み手が名詞（又は名詞句）が「どれ」を指しているか理解できると想定することが出来る場合には、冠詞は the を使用します。

例4

The moon reflects sunlight.

- 読み手は、「月は太陽光を反射します」と記されている場合、書き手が「月」という種類の物に言及していて、具体的にどの「月」を指しているかというと、「地球の周りを回っている月」だろうと想像できる。

ポイント：このようにセンテンスや文脈に名詞（又は名詞句）が「どれ」を指しているか明示されていない場合も、読み手が状況などから想像出来ると想定することが出来る場合は、冠詞は the を使用します。

名詞（又は名詞句）が指しているものが
(iii) <u>ある種類のもの全て</u>である
基本的には、**<u>無冠詞 + 複数形</u>の名詞** を使用
<u>a/an + 単数形</u>の名詞、**<u>the + 単数形</u>の名詞** を使用することもある

<u>例1</u>
Cells are the smallest units of life.
A cell is the smallest unit of life.
The cell is the smallest unit of life.

- 読み手は、「<u>細胞</u>は生命の最小単位だ」と記されている場合、書き手が「細胞」全てに言及していることが分かる
  ⇒ cells 又は a cell 又は the cell とする

例2
「子供は無邪気である」と英語で書きたい場合、読み手には「子供というものは（全て）」に言及していると理解してもらいたいので、**名詞（又は名詞句）が指しているものが (iii) ある種類のもの全てである** ときの冠詞の使い方を使用します。

この例では
無冠詞 + 複数形の名詞　Children are innocent.
を使用します。

a/an + 単数形の名詞　を使用すると
A child is innocent. となりますが、
a/an + 単数形の名詞の形は**名詞（又は名詞句）が指しているものが (i) 何か (what) 分かるが、どれか (which) 分からない** という場合にも使用するので、読み手からみて、書き手が「子供」という種類の人に言及しているのは分かるが、どの「子供」を指しているか分からない、という状態で、「ある子供は無邪気である」という意味なのか、「子供というものは全て無邪気である」という意味なのか、判断できなくなります。

the + 単数形の名詞 を使用すると、
The child is innocent. となりますが、
the + 単数形の名詞の形は**名詞（又は名詞句）が指しているものが (ii) 何か (what) とどれか (which) の両方が分かる** という場合にも使用するので、読み手からみて、書き手が「子供」という種類の人に言及していて、どの「子供」を指しているかも分かる、という状態で、「その子供は無邪気である」という意味なのか、「子供というものは全て無邪気である」という意味なのか、判断できなくなります。

無冠詞 + 複数形の名詞の形は**名詞（又は名詞句）が指しているものが (i) 何か (what) 分かるが、どれか (which) 分からない** という場合にも使用するので、
Children are innocent. とした場合、
なぜ「複数の子供（誰であるかは分からない、全員ではない）は無邪気である」という意味にならないのか疑問に思うかもしれません。慣例的に、「複数の（全員ではない）子供は無邪気である」と書く場合には Some children are innocent. / A few children are innocent. / Many children are innocent といった表現を用いるので、Children are innocent. と書いた場合は「子供というものは（全て）無邪気である」という意味になります。

冠詞の使い分け（可算名詞の場合） — まとめ

名詞（又は名詞句）が指しているものが：

(i) 何か (what) 分かるが、どれか (which) 分からない

「ある～」「ひとつの～」のイメージ

a/an + 単数形の名詞　OR　無冠詞 + 複数形の名詞　を使用

(ii) 何か (what) とどれか (which) の両方が分かる

「その～」のイメージ

the + 単数形の名詞　OR　the + 複数形の名詞　を使用

(iii) ある種類のもの全てである

「どの～も」「～というものは」のイメージ

基本的には、無冠詞 + 複数形の名詞　を使用

a/an + 単数形の名詞、the + 単数形の名詞　を使用することもある